

## 平成 22 年度 第 1 回鎌倉市次世代育成支援対策協議会 会議概要報告書

日時：平成 22 年 7 月 8 日（木）

午前 10 時～12 時

会場：市役所 全員協議会室

### 次 第

#### 開会

1. あいさつ
2. 鎌倉市次世代育成支援対策協議会の委員自己紹介
3. 幹事自己紹介
4. 正副委員長の選出
5. 鎌倉市次世代育成きらきらプランについて
6. 鎌倉きらきら白書について
7. 鎌倉市次世代育成きらきらプラン（後期計画）について
8. 今後のスケジュール
9. その他

### 出席者（敬称略）

- 松原 康雄（明治学院大学 教授）  
菅尾 成彦（鎌倉商工会議所 青年部会長）  
金川 剛文（鎌倉市社会福祉協議会 常務理事）  
遠藤 玲子（鎌倉市民生委員児童委員協議会 主任児童委員）  
松落 道子（かまくら子育て支援グループ懇談会 代表）  
富田 英雄（鎌倉市保育会 会長）  
毛利 宏乃（鎌倉市保育園保護者連絡会 副会長）  
上原 謙一郎（鎌倉私立幼稚園協会 振興部長）  
坂本 由紀（鎌倉私立幼稚園父母の会連合会 委員）  
尾利出 篤（鎌倉市立中学校長会 岩瀬中学校長）  
橋本 成一郎（鎌倉市 PTA 連絡協議会 書記）  
小坂 泰子（鎌倉市青少年指導員連絡協議会 副会長）  
糸賀 明広（市民公募委員）  
本多 尚子（市民公募委員）

### 欠席者（敬称略）

- 新保 幸男（神奈川県立保健福祉大学 教授）  
兵藤 忠洋（鎌倉青年会議所 常務理事）  
渡部 俊子（鎌倉保健福祉事務所 保健福祉課長）  
宮内 淑江（鎌倉市手をつなぐ育成会 会長）  
兵藤 嘉子（鎌倉市立小学校長会 御成小学校長）

庁内推進委員会委員（幹事）

佐藤こどもみらい部長、相澤こどもみらい部次長兼こどもみらい課長、青山文化推進課長、左藤安全安心推進課長、植地人権・男女共同参画課長、進藤保育課長、田中こども相談課長、山田青少年課長、安田発達支援室長、山本健康福祉部次長兼福祉政策課長、相川健康福祉部次長兼市民健康課長、相澤保険年金課長、八神教育指導課長、島巡教育センター所長、松平教育センター所長代理、石井生涯学習課課長補佐、

事務局

こどもみらい課 戸川、石渡、青木

## 次第１．あいさつ

事務局・・・・・・・・ ただいまから、平成22年度第1回鎌倉市次世代育成支援対策協議会を開催いたします。

私、進行を務めさせていただきます、鎌倉市こどもみらい部次長の相澤と申し上げます。よろしくお願い申し上げます。

なお、本協議会につきましては、鎌倉市次世代育成支援対策協議会設置要綱第6条に基づきまして公開となっております。また、会議概要報告書につきましても公開とさせていただくことになっておりますので、ご承知おきいただきたいと思います。

大変ご無礼ではございましたが、委員皆様の委嘱状につきましては、机の上に置かせていただきましたので、お納めいただくようお願いいたします。

それでは次第の1に従いまして、本日第1回目の協議会ということで、松尾市長からごあいさつ申し上げます。

市長・・・・・・・・ 皆様おはようございます。市長の松尾崇です。

この度は、皆様大変お忙しい中、鎌倉市次世代育成支援対策協議会委員をお引き受けいただきまして、誠にありがとうございます。

鎌倉市では、平成17年3月に「鎌倉市次世代育成きらきらプラン（前期計画）」を策定し、また、今年3月には後期計画を策定しました。

その間、当協議会の委員の皆様には、大変貴重なご意見をいただきまして、そしてその後のプランの推進に当たってもご協力いただきましたことをまずもお礼を申し上げます。ありがとうございました。

委員の皆様には、この計画にある事業や目標がきちんと達成されるか、そのための手段は適切であるか、効果を上げるためにどうしたらよいかなどについて、ご意見やアイデアをいただきたいと思いますと思っているところでございます。

また、これも個人的な意見でもありますが、半年間、もう7、8ヶ月になりますが市長になりまして、大変財政状況厳しくなっています。その中にお

いては、選択と集中ということがこれから特に求められてくるわけなのですが、その中において、この子ども達のために行うことということが特に重要になってくるといふふうに思っています。

そういう姿勢でわたくしもこれから行政に取り組んでまいりたいと思いますし、これからも子ども達のために何ができるか、何を残せるかということに行政も集中して取り組んでいきたいと思いますので、そういう意味におかれましても、皆様方の貴重なご意見をいただきたいというふうに思っているところでございます。

今後とも子どもたちを産みやすく育てやすいまち「鎌倉」を作っていくためにご協力いただくことをお願いさせていただきましてごあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

<市長退席>

## 次第2．鎌倉市次世代育成支援対策協議会の委員自己紹介

事務局…………… それでは、本日、第1回目の協議会になりますので、次第2としまして、委員の皆様にお一人ずつ自己紹介をいただければと思います。

<委員自己紹介>

委員の皆様ありがとうございました。

なお、本日の会議に欠席のご連絡を、新保委員、渡部委員、兵藤嘉子委員から事前に頂戴しております。また本日急に、今電話連絡が入りまして、兵藤忠洋委員が急な用務と重なったということで欠席の連絡を頂戴しております。

今後よろしくお願いいたします。

## 次第3．幹事自己紹介

事務局…………… 続きまして、次第の3といたしまして、幹事と事務局から自己紹介をさせていただきます。

こどもみらい部長…………… 皆さんおはようございます。こどもみらい部長の佐藤でございます。委員の皆様には、今後2年という期間でございますが次世代育成対策に関してさまざまなお立場から先ほども市長が申し上げたとおりご意見を頂戴し、また施策に反映していきたいと考えてございます。2時間というきわめて短い時間ですが、ぜひともこの次世代育成きらきらプランを中心といたしまして皆様方の忌憚のないご意見をいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

こどもみらい課長…………… 改めまして、進行役を仰せつかりました、こどもみらい部次長を兼ねましてき

らきらプラン主管課のこどもみらい課長の相澤です。よろしくお願ひいたします。

<幹事・事務局自己紹介>

#### 次第4．正副委員長の選出

<互選により委員長に松原委員、副委員長に新保委員を選任した。>

松原委員長・・・ ご推薦いただきましてありがとうございます。先ほど市長のご挨拶にもありましたが、今年の3月にらきらプランの後期計画を出させていただきました。

今もそこで御成小の子どもたちが元気に遊んでいます。こういう子どもたちの日々の営みをより充実したものにしたい。そして子育てをされてらっしゃる親御さんたちの日々の養育の支援をしていきたいという思いでらきらプランが出来上がっています。後で事務局の方から解説をしていただきますが、子ども子育て全般に当たるような事柄について、このプラン盛り込まれています。ただ、これはまだまだ欠けているところ、あるいは新たに作り出さなければいけないことがあるかもしれません。そして実際にここに書かれたものがそのままであれば、それは本当に絵に描いた餅ですので、ここに掲げられたものが着実に実現されていくということがまた大切だろうと思っています。

この2つの点、新たなニーズに対応する事柄がないのか、そしてこの計画に盛り込まれたものが着実に進捗しているのかどうか、そのことを確認していくのがこの2年間の私たちの役割だと思っています。今日またこれからの時間、皆様方の貴重なご意見をいただきたいと思っています。よろしくお願ひします。

それでは用意された議事に沿って進めてまいりたいと思います。4番の正副議長の選出まで終わりました。5番の鎌倉市次世代育成きらきらプランについて、それから併せて鎌倉きらきら白書について説明をお願ひしたいと思います。

事務局・・・・・・ その前に1点事務的なお話をさせていただきます。本協議会につきましては、皆様のお手元に資料1として配付させていただいております鎌倉市次世代育成支援対策協議会設置要綱に基づいて開催してございますことと、この設置要綱に基づきまして皆様方委員の任期につきましては、同設置要綱第3条に基づきまして、本日から平成24年3月31日までとさせていただきます。また、先ほど簡単に触れさせていただきましたが同設置要綱第6条に基づきまして、会議録につきましては、各委員にご確認いただいたうえ、鎌倉市のホームページ等で公表させていただきますので、その旨併せてご承知おきいただければと思います。

それでは次第5の説明に移ります。

## 次第5．鎌倉市次世代育成きらきらプランについて

事務局・・・・・・・・ <資料の確認>  
<鎌倉市次世代育成きらきらプランについて説明>

委員長・・・・・・・・ きらきらプランについての説明がありました。内容については次第6のところ  
で進捗状況など出てきますので、そのまま事務局にきらきら白書について説明を  
していただき、その後でまとめてご質問等を受けたいと思います。  
それでは事務局お願いいたします。  
事務局いかがでしょうか。

## 次第6．鎌倉きらきら白書について

事務局・・・・・・・・ <鎌倉きらきら白書について説明>

委員長・・・・・・・・ この白書で進捗状況が聞かれましたし、少し現状についての解説もございま  
した。ただ、皆さんのそれぞれの分野での感覚とまた違うかもしれませんし、ある  
いは生活実感と違うかな・・・ということがあるかもしれませんし、あるいは数字的  
にこれはどうなのだろうという疑問やご質問があるかもしれません。しばらくは  
ご自由にご発言いただきたいと思いますので、手を上げていただければ事務局の  
ほうでマイクをお渡しします。  
いかがでしょうか。

本多委員・・・・・・・・ 幼稚園の奨励費なのですが、上にお子さんがある場合に補助金が増額されてい  
るのですが、これが、小学校1年生から3年生までのお子さんがある場合に限っ  
て増額されています。まわりにも、2つ違い、3つ違いのお子さんはいらっしや  
るのですが、4つ5つ離れて二人目のお子さんをもうけられる方もいらっしや  
います。そうすると、たとえ3番目であっても1人っ子のお子さんと同じ奨励費し  
かいただけないので、その辺を例えば義務教育までお子さんがいればもらえるな  
ど、もう少し幅を広げていただけるといろいろな年齢の兄弟がいるお子さんの補  
助ができるのではないかと思いますがいかがでしょうか。

事務局・・・・・・・・ 今お話がありました、幼稚園の就園奨励費につきましては、国の補助を受けて  
鎌倉市が支給している制度でございます。ご指摘がありましたとおり、小学校3  
年生までのお兄ちゃん、お姉ちゃんがいる場合については増額の措置がとられて  
いるのですが、4年生以上のお兄ちゃん、お姉ちゃんがいる場合は1人目と同じ  
という状況です。

私どもも、財政状況厳しい中、国の補助を受けないで、市単独でその辺りの部  
分を補助していくということがなかなかできない現状ではございますが、本多委  
員のご意見を踏まえまして、国のほうへ制度の改正ができないかどうか、検討し

ていただく要望を今後していきたいと考えております。

松落委員・・・・・・ 質問が2つあります。まず1点目が、17ページの14-6の事業で、子どもの家、学童保育の件なのですが、受け入れ人数936人のところ、後期計画では前期よりも上回ってはおりますけれども、現在の受け入れ人数よりも大きく下回っている670人というのは、何か子どもの人数の減少など理由があるのか根拠が知りたいということです。

もう1点が46ページの3-3-11、青少年活動のリーダー講習会で、デイキャンプやリーダー研修を受けているのは存じ上げているのですが、受けたジュニアリーダー等のその後の活躍の場というのが、私たち子育て支援グループ懇談会では冒険遊び場を主催しているのですが、そこへもう少し上手につなげていただけたらと思います。今プレイリーダーはいらっしゃいますので、プレイリーダーのアシスタント的になってでも、そういうところのアプローチをしていただけると、研修を受けたリーダーもジュニアリーダーについても、高校生や中学生が部活が忙しくてなかなか日曜日の参加は難しいというのは重々承知しているのですが、万が一日程的に合うようであれば、せっかく受けたものを活躍する場面がないという声も聞くことがあるので、上手につなげていただくとありがたいなと感想として思っています。

委員長・・・・・・ 以上2点後ご発言がありました。事務局いかがでしょうか。

青少年課長・・・・ まず、放課後児童健全育成事業のところですが、後期計画で定員数が15人しか伸びておりませんが、これは中期の実施計画事業の中で、確実に施設を伸ばせる、施設数は増えていないのですが、今梶原にあります、梶原子どもの家を深沢小学校の教室の中に移すということで15人程度定員増ができるということで確実に実施計画事業の中で見込めることを挙げさせていただいたという事情でございます。確かに定員を大幅に上回っておりますので、その他の面でも、施設の増築や、学校から離れている施設もありますので、そういったところの移設など、いろいろ懸案はございますけれど、なかなか今のところは難しい状況でございます。

もう1つのジュニアリーダーの件ですが、今27人登録しておりますが、これまで子どもデイキャンプの中でジュニアリーダーを養成していくという位置付けの中で事業を実施しておりました。今その子達がどのようなことをやっているかと申しますと、中学生になってから、子どもデイキャンプのお手伝いに参加したり、子ども会の方から要請があって子ども会で小学生にゲームなどの指導を行っております。お話の冒険遊び場の件は土曜日、日曜日ということで、お話にもありましたが、なかなか日程が合わないということもございまして、またお話をいただければ、参加できる子がいるかどうかの確認はしたいと思っております。

委員長・・・・・・・・ よろしいでしょうか。他はいかがでしょうか。

それでは次の次第のほうに移りますが、また立ち戻ってきらきら白書のほうに戻っていただいても結構ですが、後期計画が、この進捗状況等を受けて新たに検討して出来上がっていますので、その辺のご説明をいただいて、また皆さんのご質問やご意見をいただきたいと思います。

## 次第7．鎌倉市次世代育成きらきらプラン（後期計画）について

事務局・・・・・・・・ <鎌倉市次世代育成きらきらプラン後期計画について説明>

委員長・・・・・・・・ まだ、4，5，6の3ヶ月、後期計画が実施され始めたところです。この構成全体を大きく変えることはなかなか難しいかと思いますが、みなさんの方でご質問、ここに視点を置くべきとか、ご意見もいただきたいと思います。いかがでしょうか。

系賀委員・・・・・・・・ 説明を聞いていて分からないところがあったのですが、先ほどこのプランを進行するにあたって、PDCAをまわしていくというところがありましたけれど、PDCAで見るところというのは、先ほどあったように、例えば数値目標があって、何園設定しますけれども、何園できましたというところがPDCAという部分と認識しておいてよろしいのでしょうか。それとも、こちらでいくと、基本目標というところで、地域で子育てを支援するまちづくりというところであるんですけど、これというのはなかなか数値化しづらく、どういう風になったら達成できたというのが分からないところが目標になっているんですけども、ここが達成できたらということでPDCAということになっているのでしょうか。ちょっとこのあたり、どの概念に対してPDCAが回っていくのかということが分からなかったので、教えていただければと思います。

事務局・・・・・・・・ お答えさせていただきます。

まず、それぞれの事業ごとにつきましては、先ほど系賀さんがおっしゃられた数値の目標が出ておりますので、それについて後期計画5年間で年度ごとに先ほどのように毎年白書を作成いたしまして点検をしてみたいです。また後期計画全体につきましては、確かにこの後期計画全体がどのように達成されているかというのを計るのは難しいところなのですが、後期計画書の86ページ、87ページに計画の目標として目標設定しておりまして、これについてそれぞれ5年後達成状況を確認して後期計画自体がどのようにできているのかということを検証してみたいのでございます。以上でございます。

本多委員・・・・・・・・ 86ページに子ども会館の一日あたり平均来館者数を増やすという目標があるのですが、子ども会館というのは今学童が併設されていまして、夏休みになると学

童のお子さんが朝から夕方までいらっしゃる。そうすると小さなお子様はお断りという感じになっています。幼稚園児くらいであれば、お母さんがつきっきりでいればなんとか。乳幼児くらいの小さいお子さんになると走り回ってますし、その中でプラレールをすると非常に危険なので、先ほど梶原の方では小学校の空き教室に移すというお話がありました。他のところでも同じような状況だと思うので、小学校には空き教室がたくさんありますので、小学校のほうに少しずつでも移管が進めば、子ども会館はいつでも幼稚園が終わったあとのお子さん、未就園のお子さんがいつでも遊びにいける場所になると思うのですが、今の状況では今日お昼に帰ってくるからもう午後は行けないというふうになってしまうので、もう少しいつでも安心して遊びに行ける場所がもう少し増えたらいいなと感じています。どのようになっていますでしょうか。

青少年課長・・・ 今お話のありましたとおり、実態としてあると思います。子ども会館と子どもの家、今12施設が併設館となっております。単独で子ども会館があるというのは今、深沢第一と長谷の2施設しかございません。

今、学校のほうにというお話もございましたが、深沢小学校につきましては余裕教室が2教室あったということで、平成23年の4月から移設できるように準備をしていますけれども、他の学校については、やはり先ほどもお話しした学校から遠い子どもの家もございまして、できたら学校の中に入りたいなという希望は持っているのですけれども、今学校自体も余裕教室は無く、深沢に2教室あっただけで他に余裕教室は無いという状況ですから、なかなかそちらのほうに入っていくことがうまく進んで行かないという状況でございます。

委員長・・・・・・ 子どもの数が減ってきている中で、空き教室が無いというだけではなかなか実感がお分かりにならないと思うので、どういう事情があって今学校に空き教室というものがでてこないのか、もう少し詳しく説明していただけますか。

青少年課長・・・ 学校に行ってお話を伺いますと、1つは少人数指導学級というのですが、今は40人が基本ですけれども、それを35人にしているという部分が増えたり、これから先さらに30人という話も出ておりますし、そういったような普通教室のところが増えている。後は、多目的室というものもございますけれども、そういったものにつきましても、それぞれ学校の方では教育目的として使っているところがあるということで、全校に行っている訳ではございませんが、学校の校長先生とお話している中ではそういったようなことがありました。

もう1つは、支援学級ですが、今は拠点校方式ということで、そういったところはそういうことで使っておりますし、他の学校にも増えていくことがあるのではないかと考えております。



本多委員・・・ 空き教室についてですが、私鎌倉市生まれで、富士塚小学校、深沢中学校を卒業しております。子どもは今大船小学校に通っております。大船小学校はもともと4クラスあったと思います。富士塚小学校も4クラスあったはずですが、今富士塚小学校は2クラス、1クラス30人位で2クラスですので、教室は半分余っているはずなんです。それで、大船小学校の現状を見ますと算数ですとか、個別の授業をするためだけの教室がたくさんあります。教室はほとんど空いています。半分は空いていると思っていただいてもいいくらいです。で、何かをするためだけの部屋というのがありまして、すごくもったいないです。本当に現状を見ていらっしやらないというのが良く分かったのですが、深沢小学校も7クラスありましたが、今4クラスぐらいだと思います。3クラス分、それだけ有効に活用されているのかというのとたった2クラス分しか空いていないなんてことはありえないんですよ。今子どもの数は減っていますが、教室もクラス数ももっと減っているのですよ。その辺をほんと、一言で空き教室が無いとおっしゃっていますが、足りています、余っていますので、教室が余っていて掃除もされないんです。余っているから。子どもたちが掃除しきれないくらい部屋が小学校にあるので、もっとそれを有効活用しないともったいないと思います。

委員長・・・・・・ 教育委員会の方、何かご発言ございますか。

教育指導課長・・・ 今青少年課長の方からありましたけれども、今学級数というのは確かに一時期よりも減っている。そして教室の活用については、まず多様な指導形態というのが最近、ここ十数年入ってきております。その1つの例として少人数指導、今まで40人で授業をやってきたものを2つの学級に分ける、あるいは2つ以上のクラスに分けて、別々、ですから個に応じた指導を行うということがございます。その他、総合的な学習の時間ですとか生活というような教科が入ってきて、それに対する作業教室、準備教室というのが必要になってきている。それから小学校においてもコンピューターを置いている部屋が準備されています。具体的に名前が出ました学校につきましても、以前普通学級で活用していた教室を特別支援学級ですとか、あるいはことばの教室というような形で、転用して使用しておりますので、空き教室というような言い方では使用していません。放課後になると当然授業を行っていないので、余裕教室のように見えますが、学校で子どもたちが勉強している時間帯にはどこかで、なにかしらの形で教室が活用されているというふうに考えていただきたいと思います。

本多委員・・・ なにかと余裕教室と言われるので、しかたなく週に何回かしか使わないとか、毎日必ず使っている教室でしょうか。そういうふうには思えない教室がたくさんあるのですけれども、それをもってなにかの教室にはなっています。なんとか室、なんとか予備室となっていますけれども、それを併用することによって空き教室

を増やして子ども会館から学童の移動ができることを考えたことはございますでしょうか。

教育指導課長・・・ 学校を運営していく、授業を組み立てていくということに関しましては、1つは余裕を持った箱の中で、授業を行うということも大事だと思います。少人数指導の効果というのを考えた時に、普通の教室で子どもが半分になるよりは、教室自体も例えば算数教室ですとか、数学教室、あるいは英語の教室、それから今導入されている小学校の外国語活動なども、教室というのはただ子どもがいるだけではなくて、そこで学ぶ環境ということ、掲示物も含めて大事な要素になってきておりますので、各学校で工夫をした、普段の学級活動、学級の教室以外の教室の運営、運用について工夫していますので、それを大事にしていきたいなと思っています。

委員長・・・・・・ 坂本委員、高、中、小と子育てなさっていて、本多さんの発言を受けてコメントがありましたらお願いします。

坂本委員・・・・・・ 私自身は実は他県から引越ししてきた人間でして、先ほどの本多さんの意見とはちょっと違いますが、子ども会館の充実というのはある程度評価させていただいています。私の4年生になる子どもは、毎日、二階堂のほうに住んでいるんですけども、二階堂の子どもの家を遊び場のようにして育ちました。それは、しっかりした監督をしてらっしゃる指導員の方がいらして、ちゃんと受けていただける方がいるということで評価しています。ですから、確かに休み中などに小さい子どもが遊ばせにくいということは感じています。感じていますけれど、それをまた違うところに、というところで、指導員の方が確保できるのかとそういった問題もあるかと思ったり、大切なご意見ですし、皆さんそのあたりはわかっていたら、ぜひ大事に広めていっていただきたい施設ですし重要だとは思いますが、私は個人的にそう思っています。

今回こちらに初めて参加させていただいたのですが、一応中学生まで義務教育ということでこのくりに入っていると思うのですが、私の実感として今すごく不登校の問題が多いんですね。その不登校の問題の中で、小学校までは学童保育ということがあるのに、中学生になったとたんそういう受け皿が無い、で、お父さん、お母さんはこれまで通り働いている、一人で家にいる、ほったらかしということをやっていると実感しているんですね。たくさんたくさん相談窓口のプリントはいただくんです。ここに相談したらいいよ、電話くださいよというのはあるんですけども、実際に学童のようなことはできないとは思いますが、何かエネルギーのある、でもやり場のないような子どもたちが集まれるというかそういうようなことができないのかなということと、それは中学の校長先生とか、青少年の方にお伺いしたいのですが、現状と問題点というのはいかがお考

えでしょうか。

委員長・・・・・・・・ 私、本多さんのご意見とても大切だと思っていて、学校の教室をどうしようかというその問題に行く前に、まずいわゆる乳幼児が子ども会館で遊ぶスペースが夏季休暇中など無くなってくる、そこは学校云々の問題ではなくて、子どもの居場所をどこに確保するかという大きなところで考えていかなければいけなくて、今子どもたちが地域の中でどう生活できるかというのは、この後期計画を立てるときにもかなり考えてきたんですね。子育てされている本多さんの実感としてこのような発言があったので、これはぜひ行政の方でもそれをどう解決できるのか、1つの選択として学校の教室のほうへ、学童期の子どもを移動させるというのがあるかもしれません。ただ、それはそれで、一体子どもの生活というのを学校と、自分の家との往復だけで、地域に寄る場所が逆に無くなってしまいます。それでいいのかどうかというのもありますし、今学校から遠いところの子ども会館を学校に近づけていこう、そのスケジュールをどういうふうに確保できるかというような全体の社会資源の充実の仕方の問題、よりミクロになりますとですね、いまのキャパシティの中で先ほどご発言ありましたけれども、指導員の問題だとか肉付けをしてちゃんと子どもたちが危なくななくいられるところを、お兄ちゃんお姉ちゃんたちが他のところで遊ぶスペースを確保しながらも肉付けできるかというミクロの問題から大きな課題もあってすごく大切な問題だと思いますし、養育している当事者としてのご発言ですので、鎌倉市としても重く受け止めていただきたいと思います。

それで、中学の話ですが。

松落委員・・・・・・・・ 私は、つどいの広場の事業を委託を受けてやっているんですね。玉縄の子ども会館でやっているもので、玉縄の子ども会館も当然子どもの家が併設されてまして、日ごろのつどいの広場事業は、小学生が帰ってくるまでの9時から2時までなのでほとんどバッティングすることは無いんですね。学期の始めとか終わりとか給食が無くなったりすると早帰りするんですけれども、基本1年生が早く帰ってくることのほうが多いですし、帰ってきても給食が無くても11時半とか12時前くらいで、そこから学童の子どもたちはお部屋でお昼を食べるので、それまでの間は上手に共存しましょうということで、通常の期間はお互いの指導員が上手にやりくりすればそれほど問題が無くなっているんですが、問題は夏休み、つどいの広場は停止です。今来ていらっしゃるお母さんたちの圧倒的な話題が、夏どうしよう、夏休みどうしようというのが本当に深刻な悩みで、暑い中0歳児や1歳児が多いので、公園で遊べる訳でもなく、その公園も炎天下の中で、子供用の日除けはしたほうがいいですよとかいう話があったりする。プール開放しているけれども、0歳児、1歳児、お母さんががっちり抱いていなければ入れない。それもちょっとかなって。おうちの中で、そうでなくても煮詰まりそうになってこ

ういう場所があって本当に助かっていますという声の中で、夏休みの40日間どうやって過ごしたらいいんですかという声は本当にたくさん聞きます。主管しているこどもみらい課のほうと相談しまして8月の間、週1回だけなんですけれども、玉縄青少年会館のもっともっと狭い和室なんですけれども、そこでとりあえずは来たら私たちはいるよと、いつものようには遊べないけれども、お母さんたちが求めているのは子どもの遊び場はもちろんですけれども、親が大人と接したい、二人きりになりたくない、なりたくないというかずーっと二人だけでいたくないという気持ちがあるので、そういう意味では狭いスペースで子どもにとってはエネルギーを発散できるほどのスペースにはならなくても多少はいいかというところではあります、本当に切実にお母さんたちは夏を怖がっています。現状報告として口を挟ませていただきました。

富田委員・・・ 私たち外から見ていますと学校の教室はいっぱい空いているように思えるんですけれども、学校現場の人たちからすると、実際には空き教室はほとんど無い。あるいはそのいくつかを割いてくれたとしても今度は指導員が集まらないという問題もあるんですね。実際問題として小学校の高学年とか大きい子が学校から子どもの家に帰ってくると、小さい子は危なくて一緒に遊べないという問題があるんですね。そこで新しい発想として各町内会の会館を市の助成を受けてだいぶ整備されてきましたので、昼間はあんまり使われていない、午後から夜にかけては利用頻度は高いけれども、昼間はわりに開いているので、そういうところを、子どもたち、特に就学前の子どもたちなどを親子で触れ合う場として利用するという方法がいいことではないかと思うのですが。その辺を町内会の役員の方々に行政のほうで働きかけてくれれば利用する機会が増えるのではないかと、そんなふうに思っているのです。

それからついでですからもう少し、資料7について、近々事業仕分けを行うと書いてありますけれども、事業仕分けをする基準というのは、あまり国の事業仕分けでも、カンカン、カンカン切るぞ切るぞというだけで、基準があまり示されていない。特に気になっているのが、資料7の事業仕分け視点3の3の鎌倉市独自の事業であり、独自性についての説明に欠ける事業というのがあるんですけれども、例えば幼稚園が最近積極的に障害児を受け入れています。それについて鎌倉市は独自でその幼稚園に、障害児を大切に扱うための、額はごくわずかだけれど助成をしています。で、障害児について幼稚園は積極的に受け入れています。保育園についても鎌倉市独自の助成があります。この辺のところは隣近所の市でやっていないんだからこれ切るぞと言われたら、鎌倉市の独自性が無くなってしまふのです。そういうふうなことについても、これはお答えいただかなくて結構ですから、この件については仕分けのときに部長さんに頑張ってくださいですね、説明に欠けるということが無いように頑張ってください。前の町内会館については、何かいい答えが得られればと思います。

委員長・・・・・・・・自治会、町内会館の活用ということについて事務局答えられますでしょうか。

事務局・・・・・・・・子どもの居場所づくりの1つの視点としてのご提言を賜ったというふうに理解させていただいているところでございます。こどもみらい部としては今現在、核となる小さなお子さんやお母さんが同時に集まれる子育て支援センターづくり、各地域に1つずつを目標として、後期実施計画では3箇所を4箇所という形で計画的に進めさせていただいて、まず地域の核づくりを頑張らせていただきたい。その中で無いところ、松落委員におっしゃっていただいたように、使える施設の中で、玉縄地域で2箇所、腰越地域で2箇所のつどいの広場事業を進めさせていただいております。そういう中でさらにご提言が活かせるかどうかということについては、財政事情大変に厳しくはございますが、検討はさせていただきたいと事務局としては考えさせていただきます。

委員長・・・・・・・・多分、そういう乳幼児の部分と、本多さんの当初の発言はもう少し上なんだよね。3, 4, 5歳くらいのお子さんのことだと思うのですが、またちょっと性質が違うかもしれません。富田委員もおっしゃっていましたが、自治会、町内会館なんかも含めて、鎌倉市は今ある社会資源をお互いどう融通しあって子どものために振り向けていくかという観念から、もちろん横浜市くらいになりますとですね、毎日開けている子育て支援施設などありますけれど、それはとても今の鎌倉市の現状では無理ですから、とにかく、社会資源を増やす努力もしていただきたいと思いますが、今ある社会資源で、ただ抱え込んでしまって使われていないのはもったいないですから、お互い融通をするようなサポートをこどもみらい部のほうでしていただきたいと思います。

小坂委員・・・・・・・・私はたまたま広町で今活動していますので、あそこでは青空保育ですか、でんでんむしとか3歳から学校に入るまでのお子さんたちがかなり最近頻繁に来て活動しています。結構たくましくて、少々の雨でも皆さんやってきて12,3人を二人くらいのお母さんたちが当番で交代で自然の中でいろいろ活動されていますのでそういうような場も夏休みも結構貴重な体験ができるのでよろしいのではないかなと思います。

委員長・・・・・・・・それでは中学生についての話題に入っていきたいと思います。

尾利出委員・・・・先ほど、坂本委員のほうから、中学校の不登校についてお話がありました。中学校の代表がこの会に参加させていただくようになりましたのは今年からということで、この白書の後ろのほうにあります昨年度までの名簿には、小学校の校長会の代表のみということで、今年度からこの会に中学校も参加させていただくと

ということで、よろしく願いいたします。

不登校は確かに中学校、本校でも大きな課題だというふうに認識しております。ここ10年近く、非常に不登校のお子さんが増えている現状があります。個々みんな違うんですね。その不登校になった原因も、不登校の状況、実態もみんな違います。その中で、不登校になって少しづつ学校に出てこられるようになった、だけど教室にはなかなか入れない、そういうお子さんもいらっしゃいます。そういうお子さんについては、本校で数名おりますが、教室には入れないけれども、保健室には、例えば2時間から3時間程度生活できると、そこで、保健室の養護の先生がそういう生徒と話をしたり、それから、本校は畑を作っております、畑のほうに一緒に行きまして、水遣りをやったり草取りをやったりというふうな活動をしている子もいます。それから、学校には来れないんだけど、ということで、大船中学校の中に教育センターの管轄になります「ひだまり」という教育支援室がございます。そこに通室しているお子さんたちもいます。それから最近の状況としてフリースクールが非常に各地にできてきておりまして、本校の不登校のお子さんでもそういうフリースクールにほぼ毎日通われているお子さんもいます。それから、まだそこまで出ていけないで、それぞれのご家庭で過ごしているというお子さんもいらっしゃいます。ですからそういう不登校の子どもたちが出て行こうというときに受け皿になっていただけるような公的な、今は「ひだまり」だけですが、そういったところの充実もお願いできればなというふうに感じております。以上です。

小坂委員・・・・・・ 中学生に関しては、前期のときの団体別懇談会ですとかそういった場でもかなり意見が出ておりまして、例えば部活をやっていないお子さんですとか、3年生になって部活が終わってからの遊ぶ場所の問題についてなんとかならないかという意見が出ていましたけれども、保護者側がやはりどこかそういう場が欲しいという意見だったんですけれども、実際のニーズは子どもたちからするとそういう場はあまり欲していないみたいで、なかなか意見としてまとまらなかったんですね。私たちも中学生の居場所ということでは子ども会館などでの夜の時間に何かあいう場所を使って少し居られるような形にならないのかなというような話も出ていたんですけれども、やはりそれも指導者とか管理の問題でなかなかまとまらないので、やはり今いろいろやっぱりそういう部分について考えていく大切な時期ではないかなと。結構お勤めをされている保護者の方も多いですので、そういうときこそ地域の中で何か守るといふか保護するといふかそういう場作りを考えてあげる大事な時期なのではないかと思えます。

委員長・・・・・・ 就学前のお子さんの話しを少しさせていただきました。今、中学校、中学生の話しも出ました。観点を変えて、他に子ども子育てのことに関わって。

このきらきらプランはそれなりに全体を網羅したつもりで、どこかに引っかか

ってくるかもしれませんが、まったく抜けてることがあればそれもまた考えなければいけませんし、どんなことでも結構ですが、いかがでしょうか。

橋本委員・・・・・・ 先ほど糸賀委員の発言に対しまして、P D C Aをどういうふうにまわしていくかということで、後期計画の86ページに全体の目標があるというお話だったんですけども、( 1 )の計画全体の目標が3項目ございまして、2番目の意味も良くわからないのですけれども、3番目の「市の子育て支援策(子育て相談支援、保育園整備、小児医療費助成など)が充実していると感じる割合」16.8%となっていて、これは極めて低いと思うのですね。前期計画の範疇ですから、結果が出ていないと思うのですね。それが、次の後期で拡充という意味不明な目標で、その中でいろいろな事業をがんばっていらっしゃるんでしょうけれども、まずここが大事なんじゃないかなというふうに感じました。

事務局・・・・・・ 現状平成20年度の先ほど出ました3つめの16.8%。これにつきましては第3次鎌倉市総合計画第2期基本計画に関する市民意識調査の平成20年度の数値でございます。今後実施計画の中で、同じような調査をされると思いますが、その中でこの拡充というのは現状より少しでも高くという形での目標の掲げかたになってしまったということでございます。

委員長・・・・・・ 具体的に何%というのは出しにくいでしょうね。理想的には100%ですが、70%でいいかということもそれですね。では80%かという議論もなかなかできないでしょうし。毎年こういうアンケート調査ができないかもしれないですが、中長期的に上がっていくことが目標で拡充ということ。私がこれを作った人ですから、そういう言葉を使わせていただきます。

ただ、橋本委員のご質問で、事務局がお答えになったんですがすごく大切な部分で、これ、私参画させていただいて、数値目標がなかなか出ないものもあるんですね。それをなんとか、ただ出ないから改革改善につながらないというのでは困るので、ここで継続とか拡充とか検討とかという用語が使われていますけれども、放りっぱなしにしないということは心掛けさせていただいたので、今回から皆様方任期が2年ですけれども、その部分、まさに数値化できないところ、数値化した部分については、我々が居ようと居まいと評価できてしまいますので、まさにここがチェックをかけていくそういう機能を持っているのかなという考え方です。

ほかにはいかがでしょうか。

活発なご意見いただきましてありがとうございます。

## 次第8．今後のスケジュール

<今後のスケジュールについて説明>

## 次第9．その他

事務局・・・・・・・・ スケジュールにつきましては、次第8のほうで説明させていただきました。ここで、皆様からご意見をお伺いしたいのですが、昨年度の協議会なのですけれど、本日のように平日の日中に全て開催をいたしておりました。しかし、平日の夜間であったり、土曜日、日曜日の開催のほうがいいのではないかというご意見がございましたら、その開催日時について検討させていただきたいと思っておりますけれどもいかがでしょうか。

委員長・・・・・・・・ 児童福祉審議会を鎌倉市が開催していたときにはですね、平日の夜と土曜の午後と交互でやっていました。やはり傍聴をしていただくとすると、なかなか日中の昼間というのは、お父さんお母さんは働いていらっしゃると思いますので、夜間にやって鎌倉女子大の学生の方などにご協力いただいて保育を付けてやるということ、傍聴者の方も傍聴できるのかなと。ただし皆さんお仕事終えられた後、あるいはご家庭の用事を済ませた後来ていただかなければなりません。また土曜日は土曜日で皆さんそれぞれお休みのご計画がおありになるので、平日のこの日中という時間を昨年度はとってきましたけれども、私もこれはどっちがどうということはございませんので、皆さんのご意見をいただきながら11月と3回目を考えていきたいと思いますが、いかがですか、平日日中というのは。お子さんが小さいと夜出にくいでしょうか。

<協議後、平日昼間の開催で決定>

富田委員・・・・・・・・ 1つだけお願いがありまして、次世代育成といいますが、実際には家庭で親が子どもをどのようによく面倒をみるか、子育てをするかということが大きいと思うのですが、最近子育てに疲れて心療内科に通っているという母親がかなり増えてきました。それで、心療内科に行くと多くはそこで投薬の量がどんどん増えていく。そうすると夜昼逆転するということがあって悩んでいるそうなんですけれど。今日、たくさん課長さん見えておりますが、どこかでそういう母親を救済する場所というか、相談に乗ってあげられる場所、医療に繋がる、なるべく薬を与えないで改善するような心療内科の医師に繋がられるようなセクションを考えていただければと思います。

上原委員・・・・・・・・ 私、初めてこれに参加させていただくので、もしかするとピントはずれなことを申し上げてしまうかもしれないのですけれども、今日、お話をずっと伺ってい



て、子どものために委員さんとか行政の方が本当に細かいところまで努力されているというのはよく分かるんですけども、感想として、子育ての後とか、次世代育成の後にきらきらと書いてあるんですけども、なんかきらきらの感じがまったく無いんですよ。その一番最たるものが松落委員さんがおっしゃった夏休み40日間をどうしようかとお母さんたちが悩んでいるというところだと思うのですよ。

うちの場合、幼稚園なので、なんとというか、今日お話しされた話題とだいぶ違ってしまいかもしれないのですけども、うちの保護者の場合、もちろん全部ではありませんが、夏休み子どもにどんなことをさせてやろうか、普段できない経験をさせるのをすごく喜んでいる、子どもと一緒に経験できることを。これは多分幼稚園だからで、保育園ではそういうことは無理ですよ。だけれども、そういう視点というものがすごく大事だと思うのですよ。なんか、子育てが大変だからそれに対して行政が応援してなんとかしようというのはとってもよく分かるのですが、やはり基本的に子育てはすばらしくって楽しくってという雰囲気なんかあまり感じないんですよ。そういうものっていうのは、我々とか行政とかがもっと出して、今大変だと思っているお母さんが子育てって面白いんじゃないかなというふうに感じられるような雰囲気づくりというのもすごく大事ではないかなと思うのですよ。だから、本当に苦労されている方には申し訳ないんですけども、子育てを楽しもうというふうに感じさせるというのも大事でしょ。私は保護者にそういう話をよくします。それに対して応えてくれる親もいますし、一部にはやっぱり夏休みをどうしようかなと思っている親もいるんですけども、でもそれは全体の時間ではなくて、確かに40日間全部いろんなことを体験させてやるというのは無理ですけど、でも全体としてはそういうふうにいる。そういう雰囲気というのは作っていく必要があるのかなと思いますし、これは日本全体を通してそういうような感じが足りないのかなと思うんですけども。印象としてそう思いました。

委員長・・・・・・・・ 後期計画表紙のところの中段がまさにそれで、子育ての喜びが実感できる、というそこがきらきらプランの目標にはなっています。またそれが上原委員がおっしゃるとおりに全員に浸透していない、確かにそうやって喜びを実感されている方もいらっしゃるしそういう方たちが増えていけばいいなと思っています。

子どもの相談については、毎年相談実績については報告されていますけれども、またこの次世代育成のところでも報告をし、またその相談窓口の機能についてもご意見いただきたいと思います。

他よろしいですか。

毛利委員・・・・・・・・ 財政がすごく苦しいということで、ほとんどあきらめきっている要望なんですけれど、保育園、特に公立は施設の老朽化が激しくて、万が一何かがあったとき

に、地震とかなんですけれども、耐震面ではどうなのかとか、親全員が心配はしても半分あきらめているような状況があると思うのです。やはり安全が第一なので、施設の面でもう少しなんとかしていただけないかと、計画をみるとあまりそういったことについては触れられていないので施設の老朽化についてなんとかしていただきたいのと、警備員の設置が小学校にはあるのですけれども、保育園には無くて、子どもパトロールで多分対応しているのではないかと思います。やはり親が出入りしやすくなっているから仕方ないと思うのですけれども、逆にだからこそもう少し防犯の面もケアしていただきたいと思います。

保育課長・・・ 公立保育園の老朽化については、皆さん見たままだと思います。私立に比べても、見た目もなんか良くないと実感として感じられているんだと思います。平成14年の児童福祉審議会の中でも、公立保育園は各地域ごとに残していこうという計画がございますので、残していく拠点園については、深沢保育園のように綺麗にしていきたいというふうに思っています。

拠点園として位置づけが決まっている園につきましては、来年度以降できれば耐震化診断から進めていきながら、施設の今後のあり方については決めていきたいと考えております。

それと、警備員の設置につきましては、いろいろ事件が起こったことを契機として、園の防犯体制ですとか、園のロックの仕方ですとかその辺りの工夫はさせていただいておりますけれども、なかなか警備員の設置まで、まだまだ予算上のことも含めてできていない状況はあります。ご意見を伺いながら送り迎えのしやすさですとか、警備の方法については、こういう場面を捉えて意見を聞いていきたいというふうに考えております。

小坂委員・・・ 前から関わっていて、どのタイミングで言えばいいかすごく悩んでいたんですけれども、たまたま広町の中で、かまくら緑の探偵団という月一回あそこの中で自然体験をして活動しているのですけれども、そういう事業というのはこういう中には載らないのかなと。というのは今会員が100名くらいお子さんを預かってますけれども、月一回、この間は田植えをしました。今度は自然体験で水辺の観察だとか月によっていろいろな畑の体験だとかしています。やはり幼児から低学年が多いですので、ほとんど保護者の方もみえます。保護者の若いお父さんお母さんも田植えや稲刈りの経験など無いので、そういう所へ来てやることですごく新鮮な体験というのは貴重だと思っていますので、こういう地域の中での活動の一つとして取り上げていただけたらありがたいなと思いながら、今回もまた載っていなかったの、何回かそういう話はしているのですけれど、どのような形で入るのか分からないので、私は今回は青少年指導員の立場で出ていますので、言っているのかすごく迷ったのですが、結構反響がありまして、藤沢からも自転車で駆けつけてくれるお父さんお母さんもおりますし、今回は全国植樹祭のほう

にも鎌倉の代表として参加させていただいておりますので、その辺はどのようなお考えなのかなと思ひまして。

こどもみらい課長…… 私どもの情報収集のネットワークが非常に弱かったという形で反省しているところで、やはり子育ては行政だけでできるものではございませんし、地域、NPO、それぞれの立場で、それぞれの方が関わっていくことが必要不可欠ということで、今回の小坂委員のお話については、本当に私どものネットワークが甘く、言葉は悪いのですが拾い漏れをしてしまったという状況がございますので、今後その点については、その活動ですと公園海浜課ともいろいろつながりがあるかと思ひますので、横の連携もしっかり取りながらネットワークの補修に努めてまいりたいと思ひますので、大変申し訳ございませんでした。

坂本委員…… すこし違う角度なのですが、私は実は関西の方から来たのですが、阪神大震災にも遭ってますし、いわゆる榊原事件のあった神戸に住んでいました。そちらからいきますと、やはり防犯、防災対策というのが少し実感的にはレベルが低いかなと思ひます。

まず関西のほうでは、例えば、今大雨だとかそういうことが急にあるんですけども、警報がでたらみんな休みとかそういうことがあります。ところがこちらには個人に任せると、それは別にいいことなんですけど、鎌倉のように各地域でこんなに状況が違う、山方面の方がいる、海方面の方もいるという状況の中で、防災鎌倉ですね、あれは非常にいいことだと思うのですが、聞こえないところがいっぱいあります。私が前に住んでいた浄明寺の方は聞こえないんですね。せっかくいいことだと思うのですが、情報がすぐ分かる、ずっとラジオを聴いてるわけでも携帯を持っているわけでもないで、ちょっと田舎っぼいですが、全体に放送されるというのは非常に良いことだと思うのですが、せっかくのことが活かされていない。山のちょっと裏側に入ると響いて聞こえないということがあるので、それを改善していただきたいということと、先ほど出ていました耐震、それから防犯ということはすぐ明日起こるかもしれないので、ぜひとも力を入れていただきたいと思ひます。

委員長…… ありがとうございます。これは市行政全体に関わることでありますので、ぜひ関係部局の方にも伝えていただきたいと思ひます。

本多委員…… 今、防犯のことなのですが、警備員さんが確か小学校の前にいらっしゃって、門のところに登校の時間、下校の時間いらっしゃるのですが、それ以外の時間はちょっと離れたところにある詰め所にいらっしゃるんですね。この間用事があった学校に行ったのですが、ほとんどそちらにいらっしゃる。今ここから言うと、扉を出てもっと向こうくらいの所なのです。そうすると、悪い人が入ろうと思っ

たらいくらでも校舎の中に入ってこれてしまう。相当足の早い方で無い限り、その距離があって追いつくことはできないので、登下校以外の場合は門を閉じるとか、開けるとときには必ずその方が出てきて対応するとかしないと、門を開けっ放しにして、しかも遠いところに警備の方がいらっしゃるのでは、せっかく来ていただいているので無駄になってしまうので、その辺、各学校どのようになっているのか分からないのですが、見直しをしていただけたらなと思います。

委員長・・・・・・・・ 他に無ければ事務局にお返しします。

事務局・・・・・・・・ <事務連絡>

長時間に亘りましてご討議ありがとうございました。これをもちまして平成22年度第1回鎌倉市次世代育成支援対策協議会を閉会とさせていただきます。

**閉会**